

# あっぷるかわら版

## 1月号



## 年頭所感



人の業や生業を考えます。

それが人の役に立っていることは幸せなものです。

安いお弁当やランチ、スイーツを作り販売する、その事が誰かの役に立っている、幸せなことだと思います。みんなは誰かのお陰で幸せなことをしている、それを感じたらいいと思います。

「業」を考えます。立川談志が落語を通じその生涯を掛けて追求した「業」を考えます。「こんな施設や病院は早く出たい」「死んでしまいたい」そんな風な言葉を羅列している言葉のすぐ傍で、普通に働いている職員がいたら、ひどいこと、広島の有地さんは雄弁に語りました。弱い立場の人や、生産性の無い人を排他することで、社会や時代はその安寧を求めゆきます。人がそこで生きているということ、そうしたことを傍らにいる私たちがどう感じるかということ・・・「業」深き自己を携えながら、そんなことを考える、冬の日には継続されてゆきます。

理事長 山下安寿

## あっぷるメンバーからの言の葉

あっぷるを利用している人(メンバー)からの言葉を添えます。( )内はペンネームです

前回、昨年5月号のかわら版で文章を書かせて貰って、家族や友人、知人、又主治医の先生や今までお世話になった人達など、沢山の人達に自分の文章を読んで頂きました。

その反響が、自分でも思っていた以上に凄くて驚いたと同時に、とても嬉しく思いました。それはやはり、自分と向き合う事が出来たし、普段周りのみんなに面と向って自分の病気の事や、病気になってから今まで自分がその事をどんな風に思って生きて来たかなんて恥ずかしくて言えなかったけど、かわら版を通して、それを伝える事が出来たからです。本当にこんな機会はめったにない事だし「私にはかわら版があって良かったな」って思いました。それはイコール「私にはあっぷるがあって良かった」に繋がるんですけどね。

今までは、自分の病気の事周りのみんなには言いづらくて、隠していた時もありましたが、それをあえて表に出す事で、私の人生また動き出したというか、変わって来た気がしています。

病気になって人生のどん底に突き落とされて、ここまで這い上がって来るのは本当に、長く険しい道のりでした。でも、そんな辛い過去があったから今の自分が在るんだと思うし、暗闇の中でもがいていた私も今は確実に、その中からはっきりと明かりが見えています。(A.I)

新年明けましておめでとうございます。昨年は、お世話になりました。本年も、宜しく願い致します。まだまだ、寒さが続きますが、皆様体調には、気をつけてください。今年も、頑張りますので、宜しく願い致します。去年は、自家製餡2トンセールがあり、沢山のお客様がきてくれて、とても、良かったです。3トンを目指して頑張っていきたいと思います。(Y.K)

私は去年の11月で20歳になりました。

あっぷるに入ってもうすぐ2年が経ちます。高校生の時は学校の実習でお弁当を入れる作業をして、自分も上手に出来たので、あっぷるに入ってからもうさらに上手に出来るようになりました。

今はあっぷるで働いて、お弁当の盛り付けや、店頭の販売を、先輩に教えてもらいながら少しずつ慣れていきました。20歳の目標は、社会人としての責任を持って、あっぷるで行動していきたいです。これからも休まずにあっぷるの仕事を頑張ります。(A.H)



裏面もあるよ

# 今

から30年ほど前のこと、一人の若き男性が、京都から、まだ幼い乳飲み子連れこの徳島に降り立ちました。現在の山下安寿(やすひさ)理事長その人です。当時はまだ「精神保健福祉士」と名乗る者がこの徳島には存在せず、白羽の矢を受けての最初の赴任地「藍里病院」でのワーカー第一人者となりました。その後、病院勤務を経て「ハートランドとくしま」(のちのハートランドあっぷる)設立にたどり着くまで、その道程は、もしかしたら果てしない闘志のようなものでできていたのかも知れません。

障害者の働く弁当屋など当時はまだ珍しく、支えたのは「自分たちも働きたい」という思いだけだったと思います。お金なんてある訳ない、家賃は山下さんが朝市場でバイトして稼いでくれた、自分たちの居場所ができた、朝起きて行く所ができた、生きとつてもええと思えた。そんな始まりだったように思います。

北島田から始まり籠屋町、新町ボードウォークではスイーツの工房が、そして今、私たちは南庄町にいます。初めての持ち家です。借金はしたけれどその懐の内側は、ここまで来られた喜びでいっぱいです。

今、その頃の様子を、車椅子の上で懐かしそうに話す山下理事長がいます。私もそんな理事長の側でスタッフになって18年、これまでに頂いた数えきれないほどの想いを、少しずつこの場所で返して行こうと思います。

スタッフ 阿部千恵

## 街の中に、人の中に、、、～精神障害者の処遇の歴史I～

この言葉には、この国が行っていた精神障害者への処遇の歴史や、私たちの社会が、精神障害者に対しての偏見や差別を是正していく意味を含んでいます。単に街の中にある喫茶店ではありません。しかし簡単には説明出来ないのも、シリーズ化をしていきながら、皆様と考えて行きたいと思っています。

この国の精神障害者への支援は、明治時代に遡ります。その時代には「私宅監置」と呼ばれた自宅の隣や、敷地内に小屋を建て、今で言うところの精神障害者を自宅敷地内で、隔離、収容することを、国が認めて進めていきました。小屋と言っても、お世辞でも綺麗な建物と呼べるものではなく、もちろん精神医療や支援も無く、家族だけに負担させるしかありませんでした。そんな全国各地に広がる悲惨な「私宅監置」の実態を調査した人がいます。帝国大学(現、東京大学)の呉秀三です。彼が全国各地の私宅監置を調査する中で、有名な言葉を残しました。「我邦何十万ノ精神病者ハ、実ニ比病ヲ受ケタルノ、不幸ノ外ニ、此邦ニ生マレタル不幸ヲ重ヌルモノトイフベシ」と述べています。現在の言葉で表すなら、「我が国の何十万人の精神障害者は、精神障害を持つ不幸の他に、この国に生まれた不幸を合わせ持つ」と言う意味になります。

約120年も前の言葉ですが、「この国に生まれた不幸を合わせ持つ」この言葉の意味は、120年経った現在はどうなっているのでしょうか、、、現在の精神障害の支援や社会の状況を、呉秀三が調査すれば、同じ言葉が返ってくるかも知れません、、、今回はここまで、次回はその後の昭和、平成、そして令和と時代を追ってシリーズ化していけたらと思います、お付き合いください。

精神保健福祉士 山下千里



### おつかれさまぜんざい

#### 自家製餡ぜんざい(緑茶・塩昆布付き)

あんこや本舗・あっぷる餡製作所が時間をかけて炊き上げた「自家製餡」をたっぷり使ったおつかれさま ぜんざいが出来上がりました。お仕事や忙しい毎日に「疲れたなあ」とふとこぼす時がある日々。疲れを感じた時は「甘いもの」が無性に食べたくなる時があります。

そんな時はおつかれさま・籠屋ぜんざいでほっこら一息… 温かな時間に包まれて下さい。「最近疲れているなあ」「疲れがたまって…」そんな風に言って下さったお客様には¥50引きの¥350で温かいおぜんざいをご用意します。

通常 ¥400(税込) 「疲れてるなあ」そんなお客様は、**¥350(税込)**

### あっぷる餡子部より お知らせ

街の中の喫茶店あっぷる・あっぷるスイーツ工房

営業日 水・木・金・土 (休業日 月・火・日)

※ 祝日営業はお知らせします。

営業時間 11:00~15:00

ランチ 11:30~15:00 無くなり次第終了

Tel : 088-679-8225 予約可能



社会福祉法人ハートランド  
ホームページQR

